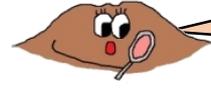




# 子ども探検隊の手引き



三見や阿武のしま模様の崖は  
どうやってできたのかな



水が関係し  
ているよ

恐竜の生きていた時代、今の北九州から萩市まで続く大きな湖がありました。

萩市三見や阿武町奈古の海岸で見られるしま模様の崖は、その大きな湖や湿地に泥や砂が溜まってできました。

下関にも同じ石があり、すずりの原料に使われています（赤間石・赤間すずり）。



すずりと同じ  
岩石

仙毒の幕岩（三見）



## 川の働きで、できたよ

大地に降った雨は地面を削り（侵食）、川となって、海や湖、池に流れ込みます。削られた岩盤は小さい石（れき）となり、さらに小さく、砂や泥になります。川は、陸地から海や湖に泥や砂を運びます（運搬）。海や湖に流れ込んだ泥や砂は、静かに水平に沈んで層になって溜まります（堆積）。そして時間をかけて固まり、岩石になります（堆積岩）。

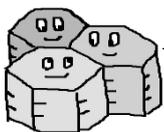


山 流れる水が岩をけずってはこぶ。

川 流れる水がれきやすな、どろをはこぶ。れきやすながたまることもある

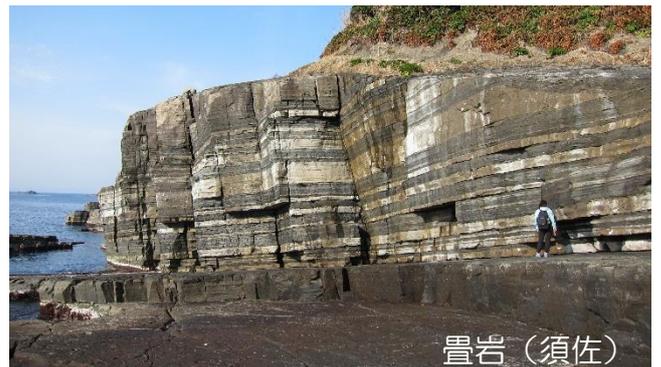
海 水の流れはおそく、れきやすな、どろがたまる。

地層から学ぶ大田市の大地  
(おおだ web ミュージアム) より引用



マグマ以外の大地の  
でき方もあるんだね

須佐の畳岩は、海の中に泥や砂が流れ込み溜まってできたしま模様「地層」として、教科書でも紹介されています。



畳岩（須佐）